

就任記者会見【テキスト版】

区長

高際みゆきでございます。このたびの豊島区長選挙、区民の皆様からのご信任をいただきまして、豊島区では初めての女性区長として就任いたしました。29万人の区民の皆様様の暮らしと命を守るという責任の重大さに、昨日初めて登庁いたしまして、改めて、本当に心から身が引き締まる思いがいたします。初めての選挙戦でございまして、右も左も分からず、ドキドキしながら、多くの方の応援をいただいて、昨日、初登庁を迎えることになりました。最初は慣れずにおりましたけれども、選挙活動の中で、多くの区民の皆様と、お一人ずつ握手をする中で、こうやって区民の皆様が暮らしていらっしゃるんだと、お一人お一人の気持ちが通じてくるような気がいたしました。握手をすることで、その方の目を見て向き合う、そうしたことで、この方が何をおっしゃりたいのか、私に何を望んでいるのか、そうしたことが伝わってくるような気がしたからだと思っております。私には非常に好きな言葉がございます。「思い込みを捨て、思いを拾う」という言葉です。昨日、初登庁しまして、職員と久しぶりに向き合しまして、区長として初めてのメッセージを届けました。その際にまず申し上げたのが、やはり区民の目線に立とう、そして、一人一人の方と握手をし続けることは出来ないけれども、お一人お一人と握手をする、そういうような気持ちで、相手に向き合い、簡単に思い込んだりしないで、相手の気持ちをしっかり受け止める、その方の思いを拾う・拾える、そうした職員、そうした区政をつくっていかうということを職員に伝えたところでございます。

今回の選挙戦で、私は3つのつながりというのをテーマで訴えてまいりました。一つ目は、これも選挙戦でずっと言っていたことなのでメディアの皆様はもうご案内のところかと思っておりますけれども、24年続きました高野区政をしっかりと継承する、そしてそれを発展させていくということでございます。未来につなげていく。今回、継承か改革か、継承か刷新かということで取上げられることが多かったと思っておりますけれども、継承

するだけで、漫然と続けてやっていくだけでは、これだけ時代が変わり、ニーズも変わり、付き合う相手も変わっていく中で、区民の暮らしや命が守れるとは思いません。継承するのは当然で、これまで高野区政、長い時間をかけて積み上げてこられた大切なもの「文化を基軸にしたまちづくり」「女性や子どもにやさしいまちづくり」を進めてこられました。そうした多くの財産はしっかりと継承をしまいたい。また、高野区政のもとで、まちの方々、町会や商店街、事業者、企業、NPOなど多くの方々と本当に密度の濃い信頼関係が築かれてきたと思っております。そうしたものはしっかりと受け継いでいきたいと、これはもう固く思っております。ただ申し上げたように、いろいろなことがどんどん変わっていく中において、継承するだけではこれはもう後退と同様だと思いますので、やるべき改革、今までもっとやるべきだったけれどもまだ手が届いていないようなことについては、豊島区職員2000人の総力を挙げて立ち向かっていきたいという決意を新たにしております。

公約について少し触れさせていただきます。最優先課題と考えておりますのは「まちの安全・安心の確保」「子育て支援」「教育の充実」、子どもの施策についてはしっかりと充実をさせていきたいと思っております。それから、「孤独孤立の対策」でございます。高齢者の皆様への見守りもそうですし、ひきこもりの問題もでございます。またヤングケアラ一等々いろいろな課題がございます。区民の皆様を孤独にさせない・孤立させない、そうした思いで向き合ってまいりたいと思っております。特に少子化の問題はもう国を挙げての喫緊の課題になっております。少子化の課題を解決するにはいろんな総合的な方策が必要だと思いますけれども、まず一つ、経済的な負担の軽減という意味では、出産費用、国の補助に区独自の上乗せをすることで、実質の無償化を図りたいと思っております。また、区内の小中学校の給食費、こちらについてもこれまで区議会でもいろいろな議論がされてまいりました。行政としてはしっかりと財源の見通しを立てた上で取り組むべきということで、これまでも答弁を申し上げてきたところでございます。今回、国の少子

化対策で、給食費の無償化について検討していくという方針が初めて示されたことなどを受けまして、区として、給食費の無償化をできるだけ早い段階で取り組めるように、庁内で検討を鋭意進めていく所存でございます。また先ほど高齢者のことを少し申し上げましたけれども、豊島区はひとり暮らしの高齢者の割合が非常に高いです。フレイル対策なども鋭意進めてまいりましたけれども、ひとり暮らしの高齢者の方、孤立させない取組を進めてまいります。日本は認知症大国と言われております。ひとり暮らしで認知症になられた方へのご支援、また、ご家族が認知症になり、社会的に、何か阻害されてしまう。自分だけで、ご家族だけでどうしようと不安な方への支援など、認知症を取り巻く課題というのはいろんなケースがあるかと思っておりますけれども、ご本人が認知症になっても、ご家族がなっても、また、これから認知症になったらどうしようというご不安を抱えている皆様に対しても、安心して豊島区で暮らし続けられる、そうした環境づくりに力を入れてまいりたいと思っております。さらに、これは高野前区長が常々おっしゃっていたことですが、商店街がまちの活力の源であって、商店街が元気でなければ、豊島区は元気にならないんだと。物価高騰なども続いている中ではございますけれども商店街が元気を取り戻せるよう、より一層力を入れた支援をしてまいりたいと思っております。こうした対策に加えまして、豊島区をより盛り上げていく、活力を出していくカギとして考えておりますのは、「文化のまちづくり」でございます。文化は高野区政でも非常に力を入れ、文化を基軸にしたまちづくりに取り組んでまいりました。今、豊島区を見ていただきますとマンガ、アニメそしてコスプレがものすごいことになっております。Hareza池袋のあたりは、土曜、日曜にかかわらず本当にたくさんの若い方々が押し寄せている状況でございます。国内外から広く集まってきていただいております。こちらを一つの起爆剤として「マンガ・アニメ・コスプレの聖地としま」これを一つの財産として、もっともっと発信できるように取り組んでまいりたいと思っております。また、文化については生活への潤いになりますので、暮らしの中で、身近なところで、文化が

あふれるまち、そうしたまちも目指してまいります。まちづくりという点では、区制100周年に向けて、1月にウォーカブルなまちづくり構想というのを発表させていただいております。池袋の東西をつなぐまちですね、車中心から人中心、人が暮らし、歩きやすい、歩いき続けたいと思える、居心地がいいウォーカブルなまち、そこにはさっき申し上げたような文化のかおりもあるでしょうし、また、福祉のかおりっていうんですかね、車椅子でもベビーカーでも、障害がある方でも歩いていきたい、まちにいきたいと思えるような居心地のいいまち、そうしたまちづくり、こちらを企業の皆様、地域の皆様、区民の皆様とともにポジティブに検討を進めていきたいと思っております。ウォーカブルなまちは、人にとっても環境がいいですし、文化のかおりがある、観光客の方がいらっしゃることで経済も潤う、まさに文化と経済の好循環ができる、心にも身体にも優しいまち、そうしたまちづくりを進めてまいりたいと思っております。また、SDGs未来都市でございますので、環境政策についてもしっかりと取り組む所存でございます。

最後になりますけれども、選挙活動の中で、「人が主役、みんなで作る豊島の未来」というのをキャッチフレーズで打ち出させていただきました。もう当然といえば当然ですけれども、やはり全ての政策について、人が主役、区民の方、これも当たり前なんです、区民の方が最優先。人が主役、人にやさしい、そうした目で全職員がより良い政策を考え抜いて、前向きに取り組んでいこうと。これも昨日職員に対してメッセージを申し上げました。今まで豊島区役所に、届いていなかった声があるとしたら、そうした声にもきっちり目配りができるような、むしろそうした声を大事にできる豊島区政が進められるように、職員一丸となって、また地域の皆様とも手を携えて、きっちりしっかりと信頼を得られる豊島区、豊島区政をつくってまいりたいと思っております。私からのご挨拶は以上でございます。ぜひよろしくごお願い申し上げます。

【質疑応答】

新宿区新聞

二つ御質問がございます。一つは、生前高野区長が、新副都心線の開通したときに、豊島、池袋、新宿、渋谷をつなぐ地下鉄ですね、開通したときに、新宿と渋谷と豊島の3区の連携は、大変大切であると申しておりました。これについての、新区長の御見解をお願いします。それからもう1点は、ヨドバシカメラが、池袋に進出されるということについて、高野区長が、池袋の正面玄関にそういうディスカウントショップみたいのができるのはよろしくないということで、反対という意思を表明されました。これについてどのようにお考えなのか。お願いします。

区長

ありがとうございます。新副都心線の件についてはこれから、所管からしっかりと状況の報告を聞きたいと思っております。ただ豊島、新宿、渋谷、これはいろいろ共通することがございます。文化のこともそうですし、若い方が多い、そうした強みもあれば、若い方で行き場がない方々が集まるようなそうした孤立対策のようなものもございます。いろいろな課題について、共通するところがあると思っておりますし、またよきライバルの面もあろうかと思えます。連携してできることは、盛り上げるイベントなどですね、連携してできることはしっかり連携していきたいですし、また豊島区はそちらの区には負けないぞという部分については、先方の取組みをしっかりと把握しながら、よきライバルとして、よき仲間として取り組んでいきたいと思っております。ご質問の新副都心線のところについては、まずはしっかりと所管から話を聞いて対応してまいりたいと思えます。

それからヨドバシカメラの件でございます。これ選挙中もですね、いろいろご質問がございました。現状について昨日、初登庁いたしまして、所管から報告を聞いたところでございます。12月に前区長が記者会見をして以降、何度か関係者で集まりまして、面

会をさせていただき、打合せをさせていただいたということはございます。直近では3月の末に、打合せの場があったということで聞いております。現状としては、こちらからはまずはどういう形でヨドバシさんが入ってこられるのか、具体的な計画を示してほしいということをお伝えしております。最近お会いしたところでは、まだお示しがされていないということを確認しております。前区長もですね、ヨドバシカメラさんが入ってくるのが駄目と申し上げているわけではありませんで、そもそも行政が民間企業の経営自体に対して口出しができるものではありませんので、入ってくるな等々の乱暴なことを言っているわけではありませんでした。ただ西武池袋本店というのが、やはり池袋の顔であって、玄関口であって、一つの文化のまちづくりの大きなカギを担うところであるので、低層部、あるいは主要部に入ってこられることについては、問題意識を持っていたと認識をしております。私としては、今まで豊島区が、先方にお伝えしていたことですね。まずはどういうご計画なのか。そこをお示しいただくことを待ちたいと思っておりますし、もう1か月たっておりますのと、あと私も区長として就任をいたしましたので、まずはお挨拶をさせていただく場を早い段階で持ちたいと思っております。そこでの現状、まずは、先方のご計画を聞かないと、判断の材料がありませんので、そこは所管の部局とともに、ご挨拶差し上げて状況を確認したいと。そうしたところが現状でございます。ありがとうございました。

毎日新聞

今回の区長選で女性区長が3名増えまして、過去最多の6名の女性区長が誕生しました。高際区長も女性ということで、女性区長が増えたということに関しての受け止めとあと原因を、何かこう、選挙戦で、感じられたことがあれば教えてください。

区長

6名っていうのは多いですかね。半分、普通の人口を考えれば半分いて当然だというふ

うに私は思います。どんな組織でもそうですが、やっぱりいろんな考えがありますし、女性だからといってみんな同じ考えではないですけれども、少なくとも男性女性半分、人口半分ずつですので、半分いるのが普通かなあと思っておりますので、6名っていうのは増えて良かったなと思いますけど、これで良いとは全然思っておりません。何で増えたかっていうところは、どうでしょうか、私自身の実感としてはですね、いろいろ回ったときに、女性の区長になるのねっていうことでがっかりされた人は1人もいませんでしたね。今は子育て支援の充実もあるし、女性の活躍をもっと進めなきゃいけない時代だし、やっぱり女性になってもらうのはいいことねえっていう声が全てでしたので、やはり女性区長だけではないですけれども、女性のリーダーに期待される部分っていうのは、とても多いんじゃないかと思っております。

新宿新聞社

豊島のまちづくりということに関しましてはですね、特に大地震に対する防災対策、これについてどういうふうなですね、取組をやっていくのか。中でも、帰宅困難者問題というのが、今後大きくクローズアップされてくると思います。具体的にはどういうふうな方向持って取り組んでいきたいと思っておりますか、お聞きしたいと思います。

区長

大地震に限らずかもしれませんが、やはり区長になって何を1番したいかと別の方に問われたときに、安心・安全の確保、災害対策についてはまずもってやりたいと思っております。取り組んで、もうあしたから出来ますというそういう簡単なものじゃないゆえに、やはりもうすぐにでも、一歩でも二歩でも進めるように、検討を総合的に進めていかなきゃいけないと思っております。もちろんハード的には木密のところの対策ですとか、そうしたハードのところは所管ともどういうことを、どういう順番でやるのか、しっかり打合せをしたいと思っておりますし、私はソフトの部門を副区長として所管をしていた立場から申し上げますと、木密のところの対策というのはもちろん進めなきゃい

けないんですけれども、そう言ってる間にもあした地震があるかもしれませんので、特に要配慮者、高齢者、障害のある方、それから妊婦さん、小さいお子さん、お怪我されている方、病気の方も含め広い意味での災害時に支援が必要な方への対策、誰がどういうふうに救うのか。施設に入っている方もいらっしゃいますし、あるいは介護施設の方ですとか、子どもの施設の方ですとか、しっかり連携していかなきゃいけないと思っております。またマンションも多いです。ひとり暮らしも多いです。これは本当に本気でやらないと、明日地震が起きたときに命が救えないので、逃げるときに支援が必要な方への対策は早急に検討を進めなければいけないし、進めていきたいと思っております。また全て逃げればよいというものではないと思いますので、どういうときに逃げるのか、逃げないほうが安全なのかというような区民への周知も力を入れていきたいと思っております。帰宅困難者対策は、今までも鉄道事業者などと連携して、訓練ですかね、こういうときに、どこで、どのくらいの方に待機していただいて、その待機状態をどこで把握して、総合的にやっていくのかというような訓練はしてまいりました。ただ、今の確保されている規模で足りるのかどうか。増やすにはやはり企業の皆様との協力が何よりかと思っておりますので、企業の皆様との連携について現状どこまで出来ているのか、そこをしっかりと把握した上で、一つでも二つでもその連携先が多いというのは望ましいことかと思っておりますので、その地域の皆様と協働のチーム、今もそうしていると思っておりますけれども、その上での検討をしっかりと進めてまいりたいと思っております。

日経 BP

先ほどの西武池袋店の話があったと思いますが、もう少し具体的に教えていただきたいと思っております。これから面会をしてご挨拶される予定なのは、セブン&アイホールディングスなのか、あるいはフォートレストなのかというところを教えていただきたいのと、もう一つですね、百貨店の主要分に入ることについては高野前区長が問題意識を持っていたと思いますが、百貨店が駅前に必要な理由を高野前区長がどのように考えていらっしゃ

やるか教えていただきたい。例えばヨドバシカメラであってもマンガやアニメとかいわゆる豊島区が力を入れてきたものに、親和性の高い商品も置いていますが、そうではなくてラグジュアリーなものや、いわゆる宝飾品みたいなものがなければいけない理由が、もし何かそういったことをお考えだったら、聞かせていただいてもいいですか。

区長

まだ面会のお約束をしてないので勝手にいうことになりますけれども、もちろんそのセブン&アイホールディングスさん、それから、地権者である西武ホールディングスさん、特に西武ホールディングスさんは西山新社長に代わられたということもございますので、早い段階で、まずは両方にご挨拶申し上げたいというふうに思います。駅前に百貨店がなければならぬ理由でしたよね。どこの駅前にもなきゃいけないってものではないと思いますけれども、少なくとも豊島区池袋において、西武池袋本店が池袋の顔である、顔であって来た、玄関口であるということもう揺るぎない事実でございます。そこが宝飾品をずっと売り続ける必要があって、ヨドバシカメラさんが入っちゃいけないという理由もないと思いますね。私はやっぱり入り方だと思います。どこの階に、どのくらい入ってこられるのか。例えば西武池袋といっても、本館もあれば別館もあるし、中央もあれば北や南もありますね。地下から最上階までありますので、どういうふうに、どこの場所で、どのくらいの規模で、何をどう売られようと思っているのかってところをまずは聞きたい。これも選挙戦で、低層部じゃなければいいんですかというようなお問合せやお尋ねがありました。申し上げたように高野前区長も入ることについて、やめてくれとは言っていない。そういう意味では共通だと思うのですよね。入ってこられるそのプランニング、それを聞けば私はですね、実は低層部も絶対駄目かって言ったら、これは聞いてみないとわからない部分じゃないかなと思います。それは低層部、例えば地下から4階まで全部、全面っていうと、さすがにこれは顔が変わると思います。ただ、3階の一部で、こっちのここに入りますって言ったときに、それが池袋の顔を変えるか

という、内容によってはそうともいえない場合もありますよね。何度も言って恐縮ですけど、まずはご計画を聞きたい、それは豊島区役所だけじゃなくて、まちの皆さんがみんな心配されております。区民の皆様もそうですし、駅前の商店街、西武池袋本店も入られている、仲間になっていらっしゃる商店街の皆様も心配されていますし、文化の団体ですとか、地域の皆様はどうなるのかしらと非常に心配されているので、そこはまちづくりの行政を担っている豊島区としては、しっかりお示してくださいというのは言い続けなきゃいけないなと思っています。

朝日新聞

まず、3点伺いたい。まず1点目は給食費の無償化についてなんですけども、選挙期間中はですね具体的な実施時期の言及がありませんでした。で、実施時期について今年度途中から始めるのか、それとも来年度から開始を目指すのか、現状で構いませんので目標について教えていただけたらと思います。

区長

今年度からできるように、全力で検討したいと思っております。

朝日新聞

ありがとうございます。2点目ですが、区の情報発信についてです。これまで豊島区は新年度予算会見とか、年に数回程度を実施してきました。で、昨年当選した品川区の森さんですと定例会議を月1回のペースで始めたりしているわけですが、区として情報発信、もしくはそういう情報公開の面で、今後どの程度で区長会見などを実施していこうとお考えでしょうか。

区長

まだ広報課とそこまで打合せは出来てないですが、これまでよりはやったほうが良いと思っています。特にトップが変わりましたので、何を考えている人なのかっていうことを、区民の皆様や企業の皆様に知っていただく意味でも、ある程度定期的に、私の考え

ていることを、すぐに出来ないことも含めて、こういう未来を描きたいということも含めてですね、そこは今まで以上に発信をしていく必要がそこは大いにあると思っております。

朝日新聞

ありがとうございます。具体的には月とか何回とか例えば、2か月に1回とか1か月に1回とかそういったものは、今お考えありますでしょうか。

区長

そうですね、頻度は変わるのかもしれませんが就任して半年ぐらいの間は、できる限り多いほうがいいのかなと思います。その後の展開の仕方についてはまた所管と検討したいと思っておりますけれども、行政っていうのはやっぱり、何をやろうとしているのか、お知らせするのが大前提だと思います。私は「区民のお声を聞く」と言っていますので、お声を聞くには多分、皆さんも、この人が何をやるのかっていうのを知った上で、いろいろご意見というのはよりお寄せいただけるものと思っています。お声を受け止める側の人間としては、こちらの考えをしっかりお示しをしていく必要があると、このように思っております。

朝日新聞

ありがとうございます。3点目は、東京都で先ほど発表されたということですが、小池知事との面会についてです。この面会をする目的とですねこの場を借りて、区として、まず第1に、都へ要望したい点など、お伝えしたいことがあれば教えてください。

区長

先に言ってしまうと、知事のほうでご準備されてしまうかもしれませんが、まずは私の慣れない選挙戦を元上司として、本当にご心配をおかけしました。ご自身の選挙でご不安になることは恐らくないと思っておりますけれども、私の選挙についてはもう私以上に、毎日毎日ご心配をおかけしたと思っておりますので、御礼を申し上げたいというこ

とがまず目的でございます。心配の余りほかの区議選などもある中で、私の第一声にも、最終の演説にも、もう駆けつけてくださっておりますので、御礼を申し上げるということがまずもってです。それからお願いという意味ではさっき申し上げた文化という点では、「マンガ・アニメ・コスプレの聖地としま」を打ち出していきたいというふうに思っています。東京都のほうでも、マンガのセル画について、たくさんお持ちのものを、今度新しい施設をつくるということで今年度取り組まれるということになっておりますので、そことも強烈的なタッグを組みたいなど。もうこの機に、民間企業であるアニメイトさん、それからいろんな事業をされているサンシャインさん等々の企業とも含め、東京都の新しいマンガ・アニメの施設ができるタイミングで、アクセルを踏んで一気にいきたいと思っておりますので、そこの連携をよろしくお願いしたいというのは申し上げようと思っております。そして、ウォークアブルなまちづくりについて、私もこれからもうどんどん勉強しなきゃいけないですが、恐らくいろんな規制があり、まちづくりは当然区だけじゃ出来ませんので、東京都との連携または東京都を通じての国への働きかけなど、まちづくりにおいてはもう連携なくして出来ないと思っております。そちらについても、今後、私も勉強した上で、東京都、いきなり知事になるかどうかですけれども、都市整備の部門と連携をさせていただきたいと、よろしくお願いしたいということ、この二つは、強く強くお願いをしようと思っております。

日経新聞

日経新聞です。すいません、西武・そごうですけど、改めてヨドバシカメラが低層階に入ることについて、地下1階から4階まで全面を埋めるとそういったプランニングについては、反対といいますか事業者に対してはそういったことはしないように求めているというような理解でよろしいでしょうか。

区長

今までお会いしたときにはそのように、もうお伝えをしております。低層階、それから、

主要部については、できる限りご配慮をというようなことで申し上げているというふう
に認識をしております。

日経新聞

高際区長としてもそのようにお考えでしょうか。

区長

それはさっきお伝えしたとおりですね。

日経新聞

はい。あとアニメに関してなんですけれども、池袋は非常にアニメの聖地として活発に
なってきたかなと思うのですが、秋葉原とか中野とかも、アニメの聖地として栄えてい
るかなと思います。その横のつながりというのがあんまり見られないのかなと思うので
すが、そこの相乗効果を生かしていく意味を込めて、そこのつながりで何らか考えて
いることがあったら教えていただければ。

区長

中野は近いので一緒にやっているんですよ。マンガランド、3区でやっているんですよ。
秋だったでしょうかね。そこは連携してやっているの、当然おっしゃるとおり単独で
がががやっていくっていうのはもちろん売りでいいのしょうけど。面としての広が
りという意味では、特に中野区さんとは、あるいは、ずっと1年通してっていうわけに
いかないと思いますけど、ある時期、集中してやることでパワーも増しますので、やっ
ていきたいなと思っております。秋葉原はちょっと場所が離れていることもあって、今
時点ではないんですけど、どうですかね、何か東京都として盛り上げていくっていう観
点では連携するところはあるのかもしれませんが。ちょっと今、もしかしたらライバルか
もしれませんが、連携できるところは、連携するのはやぶさかではないと思いま
す。

日刊工業新聞社

産業支援についてお伺いしたい。商店街の支援だけでなく選挙公約では、創業支援であったり、中小企業の支援もされていったりというふうに宣言されていたと思うんですが、豊島区ならでは、サポート体制というのは具体的にどういうものか、また、今後、具体的にどういうふうに支援をしていくかという、お考えを教えてください。

区長

事業者への支援というのは特にコロナ禍において、国も東京都もかなりの数、いろんな種類をやられております。現場の声を聞きますと、使いやすいものももちろんあるんですけど、ちょっと書類が多いかなとか、こっちには使えるけど微妙にここが使えないよねとか、いろんなお声があるようです。豊島区独自のサポートっていう意味では、まずは既にある支援、またこれからもいろんな支援メニューが出てくると思うんですけども、そうした国や東京都の支援メニューを使えるものはもう全部使えるような、そうしたご支援をしていくのはやっぱり基礎的自治体の役割だと思います。書類が多くて出来ないよっていうとその書類のつくり方にどういう支援ができるのかとかですね。あるいはいろんな支援がある中で、ここだけちょっとぽこっと抜けているっていうようなものがあれば、そこが必要であればその部分は区独自にやっていくなど、現場の皆様がしっかり使えるような役立つ支援をフォローしていくっていうのは、国や東京都では出来ない、豊島区ができる、区がやるべきことだと思っておりますので、そうした国や東京都の支援を下支えする、下支えできる支援をきちっとやっていきたいと思っております。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)